

2016年 10月 14日

超短期留学報告書

派遣者氏名：堀田 実, 藤岡 和毅	
所属・研究室・学年：物質理工学院 材料系 小林郁夫研究室 修士1年（堀田） 物質理工学院 材料系 尾中研究室 修士1年（藤岡）	
派遣先大学：国立台湾科技大学	
派遣期間：平成 28年 8月 16日 ~ 平成 28年 8月 26日	

- ・ この表紙を含まず、ページ数は2~4ページ、ファイルサイズは3MB以内としてください。
- ・ 研究室や宿舎内の様子の写真、図表、イラスト、滞在中のその他の写真などは挿入可です。ただし、それらを掲載する際には簡単な説明を加えて下さい。
- ・ 提出された報告書の2ページ目以降を工系のホームページに掲載いたします。また、別途、クロニクルへの執筆をお願いすることがあります。

報告書必須記載事項

- ・ 派遣大学の概要（所在地、創立、大学の規模など）
- ・ 所属研究室での研究概要とその経過や成果、課題など
- ・ 所属研究室内外の活動・体験（日常生活・余暇に行った事など）
- ・ 留学先での住居（寮、ホームステイ等）、申し込み方法、ルームメイトなど
- ・ 今回の留学から得られたもの、後輩へのメッセージ、感想、意見、要望

東京工業大学 工系3学院

超短期留学報告書

派遣年 : 平成28年
氏名 : 堀田 実, 藤岡 和毅
所属 : 物質理工学院 材料系 小林郁夫研究室, 尾中研究室
派遣先 : 国立台湾科技大学

(次ページ以降に記入してください。)

概要

平成28年8月16日から26日までの11日間、台北にある国立台湾科技大学へ短期留学しました。私にとってこの留学が初めての海外なので、この機会を通して現地の学生と深く意見交換をし、先端科学に関する技術的な視野を広げたいと思い参加しました。

国立台湾科技大学(National Taiwan University of Science & Technology, NTUST)は、台湾台北市にある理系・科学技術系の国立大学です。台湾経済及び工業の発展に必要な専門技術者と管理職を育成するために設立された国立台湾技術学院から、1997年に大学として改編されました。



写真2. 日本人留学生(東工大, 徳島大, 大阪大, 大阪工大)

講義以外での活動・体験

今回のサマースクールプログラムでは、講義の後の平日は、台湾の学生とともに近くの夜市に行ったり食事に出かけたりしました。また、講義が早く終わる日は、西門や台北101に出かけたりもしました。講義が入っていない日曜日は、台湾の学生に連れられてバスで様々な観光地に連れて行っていただきました。以下では、平日の講義外活動と日曜日に行った観光の中からひとつずつご紹介致します。

まず、平日の講義が終わった後に松山の夜市へ出かけたことについてご紹介致します。講義後、サマースクールプログラムの参加者をいくつかのグループに分けて、台湾の学生とともに松山の夜市に出かけました。夜市はたくさんの人々で賑わっていて、マンゴーかき氷、ジュース、臭豆腐等様々なものが売られておりました。観光後はみんなで集合写真を撮りました。写真2はその写真です。

次に、日曜日の観光先のひとつである九份についてご紹介致します。九份とは千と千尋の神隠しのモデルであると噂されている、非常に人気の高い観光地です。写真3はその観光地の様子で、たくさんの日本人観光客で賑わっていました。また、店には果物を食べながらゆっくりとくつろげるカフェのような店や、様々な土産物を販売している店がありました。



写真2 松山の夜市における集合写真



写真3 九份における観光の様子

留学の申し込み、留学先での住居・ルームメイトについて

留学の申請自体は名前と学籍番号等を申請書に記述した後、工系国際連携室に直接提出するのみです。研究室に所属している学生は、留学プログラムに参加する旨を、担当指導教員に伝えた後、許可を得てから申請することになると思います。サマースクールプログラム参加の許可が下りたら、後日サマースクールを担当する先生から大まかな指示をいただくこととなります。サマースクールプログラム自体は現地集合・現地解散の流れとなりますので、航空券・パスポートの取得、海外保険への加入等、渡航等に関しては個人で計画することとなります。費用に関しては、サマースクール参加費15000円に加えて、食費や渡航費等を個人で負担することとなります。ゆえに、留学にかかる総費用は個人の努力で安くすることが可能です。

次に、留学先での住居についてです。留学先では大学の寮に2人1部屋、もしくは3人1組

で宿泊することになります。寮に泊まるとなると、汚くて狭い空間を想像されるかもしれませんが、決してそのようなことはありません。下の写真4は宿泊した部屋の様子です。ホテルのように広くて快適な空間であることがわかります。アメニティグッズも大学側のご厚意で完備されておりました。さらに、大学のwifiを使用することができるため、ネット通信に関しても困ることはありません。セキュリティに関しても、カードキーロックを採用しており万全です。

最後に留学先でのルームメイトについてです。サマースクールプログラムは、東京工業大学だけでなく、大阪大学、徳島大学等、たくさんの大学が参加しておりました。そのため、ルームメイトも東京工業大学の学生のみでかたまるということではなく、他大学の人と一緒に宿泊することになりました。したがって、東京工業大学と他大学との違いを知る良い機会になったと同時に、たとえ同じ東京工業大学の学生同士で宿泊することになっても、学科の違いを知る良い機会となりました。



写真4. 宿泊していた寮

留学で得られたこと

この留学を通じて、多くの先端科学技術・知識に触れることができました。また日本と台湾の文化や社会的背景に関する類似点・相違点を直接肌で感じることができ、国際的な感覚を身に着けることができました。

今回が初の海外経験であったため、台湾に行く前から日本語が通じない環境での生活に不安を感じておりました。しかし、思い切って参加してみると、最初はほとんど話せなかった英語が少しずつ話せるようになりました。滞在期間が長くなるにつれて、会話に対する抵抗を感じなくなり、会話することに楽しさを感じるようになりました。他国の人と触れ合う楽しさを、まだ海外へ一度も行ったことのない後輩たちには是非伝えたいです。